

2014年度 第5回 千葉大学アカデミック・リンク・セミナー(千葉大学附属図書館 2015.3.20)

どのように学生を知ろうとし、どのように学生を支援しようとしているか

-イェール大学、マサチューセッツ大学アマーست校での調査から-

千葉大学附属図書館学術コンテンツ課
谷 奈穂

発表内容

- ・2014年10月、イエール大学、マサチューセッツアマースト校に海外派遣
(H26年度国立大学図書館協会海外派遣事業)
- ・イエール…学生行動調査について
(どのように学生を知ろうとしているのか)
- ・マサチューセッツ…学習支援について
(どのように学生を支援しようとしているのか)

学生行動調査のプロセス

・問いを立てる



・学生にきく



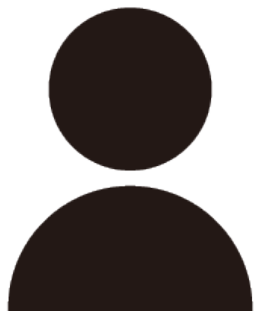
・学生が何をどのように勉強しているかを知る



・図書館ではどうすればいいか考え、実践する

問いを立てる

- ・ガイダンスやってるのに何で来ないの？
- ・論文をどうして探しきれないの？
- ・新しいスペースをなんで使わないの？
- ・なんで図書館員に質問しないの？



図書館の人

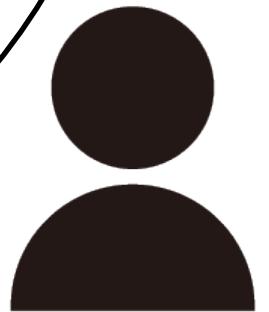
問いを立てる

- × 図書館のための問いになっている
- × 学生の行動を変えようとしている

問いを立てる

- ・キャンパスに勉強スペースが
少ないって意見が一年生に多いな...
- ・●○分野の院生って
ほかの分野と比べて修了遅いな...

なんでだろう？



図書館の人

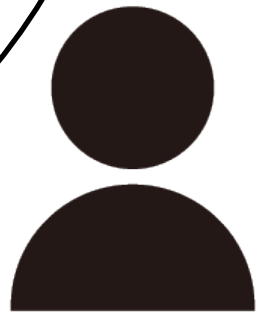
問いを立てる

- 学生の声や大学全体の問題を知る
- それをふまえて問いを考える
- 図書館が学生の実態に合わせて変わる、
図書館としてできることを考える

問いを立てる

- ・キャンパスに勉強スペースが
少ないって意見が一年生に多いな...
- ・●○分野の院生って
ほかの分野と比べて修了遅いな...

学生の人、なんでだと思うー？



図書館の人

学生にきく

- ・「なぜ？」に対する答えを考えるのは学生ではなく自分(＝ここでは図書館の人)。
- ・あくまでそのための材料として、学生には「何をどのように勉強しているか」をきく。

学生が何をどのように勉強しているかを知る

学生に「あなたは、普段、何をどうやって勉強しているのか？」を聞く

(× 図書館をどのように使っているのか)



学生の発言を分析する



学生が困っていること、不満に思っていること、便利に使っているもの、不足しているもの...などなどを発見する。

学生が何をどのように勉強しているかを知る

どうやって？

- ・アンケート(量的調査)だけ？
- ・インタビュー(質的調査)だけ？

→併用する。

学生が何をどのように勉強しているかを知る

調査するのは誰？

- ・図書館員だけ？

- ＋調査のプロ（質問のつくりかた、質問の仕方、分析の仕方）

- ＋図書館員以外の人（他の人の目、図書館だけの調査ではなくなる）

図書館ではどうすればいいか考え、実践する

調査が終わればそれで終了？

- ・結果をふまえて何かを変えること

→学生にとって「改善された」と感じなければ信頼されなくなる。

①人文科学専攻の博士課程学生を対象とした調査



問いを立てる

→人文科学の博士課程学生の課程の修了が他の分野と比べて遅いようだ。なぜこのようなことが起きているのか？図書館として何かできることは？

調査の概要

【調査メンバー】

図書館員11人(全員初)＋人類学者(レクチャー)

【対象】

人文科学(Humanity)専攻博士学生33人

【手法】

事前アンケート(基本情報)＋インタビュー。

発言のカード化。定期的にミーティング、分析。

調査の結果（一部）

- 調査のために海外へ行く必要がある。準備やその後のまとめも含め多くの時間と労力がかかる。
- 博士論文執筆前に十分なトレーニングを受けられていない状態でいきなり大部な論文を書かなくてはならない。
- 学生は自宅で勉強することを好む
- 春季休業中、学部生がいない時期（＝大学院生が集中できる時期）に図書館が早く閉館する

図書館ではどうすればいいか考え、実践する

- 検討中。
- たとえばオンラインのコンテンツを増やすことが考えられる。

②音楽専攻の大学院生を対象とした調査



問いを立てる

→School of music (SoM) の学生はどんなサービスを必要としているのか？図書館として何ができるのか？（学生にとって必要な存在でありたい）

調査の概要

【調査メンバー】

図書館員1人（Emilyのみ）＋SoMの学生3人。

【対象】

SoMの学生40人

【手法】

事前アンケート＋インタビュー（インタビュアーは学生のみ）。

定期的にミーティング、発言について分析。

調査の結果（一部）

- 図書館の資料はあまり使わない。
- そもそも図書館にあまり来ない。
むしろSoMのラウンジでくつろいでいることが多い。

図書館ではどうすればいいか考え、実践する

- 図書館の資料はあまり使わない。
 - 2階にあった雑誌を1階に移動。学生たちはその存在に気がつき、手にとって見るようになった。
 - そもそも図書館にあまり来ない。むしろSoMのラウンジでくつろいでいることが多い。
 - 図書館内にもラウンジのスペースを準備
 - 学生を図書館にひっぱってくるのではなく、図書館員自身がSoMに出向いてリソースの紹介などをおこなう
- Embedded librarianshipを計画中

学生行動調査のプロセス

・問いを立てる
(「学生」「大学」に目を向ける)



・学生にきく
(学生自身のことをきく)



・学生が何をどのように勉強しているかを知る
(調査にはプロの手と図書館員以外の目)



・図書館ではどうすればいいか考え、実践する
(調査だけに終わらない)

マサチューセッツ大学アマースト校(図書館)



26F

Teaching Commons

10F

Learning Resource Center

3F

Digital Media Lab

B1F

Learning Commons
Writing Center

学習支援のために用意されていたのは

- 用途に特化した場所＋その分野の相談ができる人材（ライティングならライティング、メディアならメディアのプロ）

→さらにそれらの場所を、大学の「中心」（物理的、心理的）である図書館に集めていた。

学習場所
＋
ツール

Learning Commons



PC (Adobeなど)



各種サポートデスク



大判印刷用プリンタ



文房具の自販機

ライティング サポート

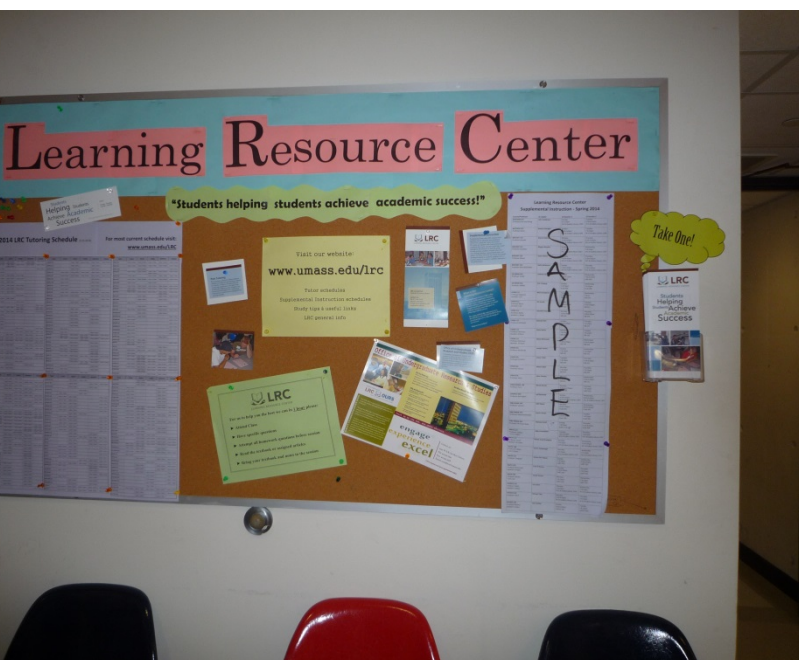
Writing Center



- トレーニングを受けた学生スタッフが相談者と1対1でセッション
- 文章を「直す」のではなく、会話をすることで相談者自身の気づきを引き出す



- メディアに関する問い合わせなら何でも
- 作業スペース＋相談スペース
- 各種機材、撮影・録音スタジオの貸出
(ビデオ作成の授業)
- ドローン、3Dプリンタの貸出も検討中



- 学部1、2年生対象
- チューターも学部生
- ピアチュータリング
- サプリメンタルインストラクション
- OURS(Office of Undergraduate Research and Studies)
- 2013-2014年は延約34,000人
(全学生の60-70%)が利用

Teaching Commons



- 副学長の意向「図書館に連携の場を作って欲しい」
(FD組織＋IT組織＋図書館)
- 静かで落ち着いた環境で執筆などの活動ができる
- 著作権のコンサルテーションサービス

マサチューセッツ大学でみた 学習支援から考えたこと

- 用途に特化した場所
＋その分野の相談ができるプロ
- 図書館はどんな場所で
図書館員は何のプロなのか？

マサチューセッツ大学でみた 学習支援から考えたこと

- 学生から見た図書館員...

図書館＝「資料」がある場所 にいる人

→ 資料がどこにあるかは知っている

- 私（図書館員）が考える図書館員...

図書館＝「学習」がおこなわれる場所の一つ にいる人

→ 必要な資料に確実につなぐ（聞かれても聞かれなくても）

→ 図書館として学生に必要な環境を用意する

（学生のことを知る）

→ 「学習」がおこなわれる他の場所にも行く or

学生には見えない存在でもいい？